

令和7年度 アクションプラン

家庭との相互理解の下、各種方策を実践することで、アクションプランを達成する。

(1) 取組について

学校の教育目標を達成するためには、評価システム（自己評価や学校関係者評価）を導入し、保護者や地域に開かれた信頼される学校づくりを推進することが重要である。そのため、それぞれの項目に具体的な数値目標を設定し、その達成状況について生徒や保護者、学校評議員等に評価を依頼し、その評価を学校だよりやホームページ等で公表していく。

アクションプランで示した方針に沿って本年度の重点目標を明確にした上で、計画を立案し、実践する。

教員全員が本年度の重点目標を共通理解し、生徒の実態を基に改善策を出し、学校全体で取り組むことで、生徒の成長につなげたい。

(2) 年間計画

月	実 践 内 容
4	本年度の重点目標・重点課題の決定 学校アクションプランの決定（重点項目、重点課題、数値目標、方策） 学校アクションプランの公表（生徒、保護者、学校評議員等）
5	
1 2	評価の実施（生徒、保護者、学校評議員等）
2	評価結果及び改善策の公表（各種たより、ホームページ等）

	令和7年度 入善西中学校アクションプラン 1
重点項目	学習指導
重点課題	主体的・対話的に授業に取り組む態度を身に付ける。
現 状	○ 友達の考えと自分の考えとを比較して考察し、自分の考えを論理的に表現することや自分で課題を見いだすことが苦手な生徒が多い。 ○ 生徒による授業評価において、「『分かったこと』や『できるようになったこと』『疑問に思うこと』等について、自分の言葉で発表したり、伝えたりすることができたか。」という質問で、「できた」「だいたいできた」と答えた生徒は65%と1, 2学期ともに低い状態が続いた。
具体目標 数値指標	○ 授業のまとめや振り返りを基に「分かったこと」や「できるようになったこと」「疑問に思うこと」等について、「自分の言葉で発表したり、伝えたりすることができた」と答えた生徒の割合が70%以上になることを目指す。
方 策	○ 友達の考えを聞いたり、技能を見合ったりして、友達の考えや技能等に触れ、比較検討する機会を十分に確保する。 ○ 単元ごとに計画・振り返りシートを配布し、自己の学びを振り返り、計画をヒントに次時の課題を発見したり、自己調整を行ったりしながら学習を進められるような活動や方法を工夫する。

	令和7年度 入善西中学校アクションプラン 2
重点項目	特別活動(自治的活動)
重点課題	生徒の自己有用感を高める。
現 状	○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な行事・体験活動の中止や縮小が相次いだことで活動体験が少なくなっている。また、学校生活の中での日常的な友達との関わりが少なくなっている。 ○ 令和6年度11月実施のi-checkにおいて、「学校の授業やクラスの役割等で、自分は先生から期待されている、友達から頼りにされていると感じることがありますか。」という質問に対して「よくある、ときどきある」と答えた生徒の割合が60%前後と極めて低く、多くの生徒が自己有用感を感じているとは言えない。
具体目標 数値指標	○ i-checkにおいて、自己有用感に関する項目に対して「よくある」、「ときどきある」と答える生徒の割合が70%以上を目指す。
方 策	○ 学級活動や部活動、学校行事等において、生徒が主体となった企画、運営を行う。 ○ 学級会や代議員会、生徒総会を通して、意見交換を密にし、生徒会執行部、実行委員会、学級それぞれの連携を図り、自治的活動の充実を図る。 ○ 生徒一人一人が目標をもち、成就感や達成感を味わうことのできるような学校行事や活動の機会を確保する。また、その活動を振り返り、生徒同士あるいは生徒と教師間での「認め」、「励まし」、「感謝」し合う場の設定をする。